

## 《資料》平成27年度知的障がい支援学校通学区域割の変更

◆八尾支援学校東校の廃校、中河内南河内地域新校の開校により、東大阪市は、4つの学校に分けられてしまいます。

東大阪市に小学部・中学部・高等部が併設された知的障がい支援学校がないため、在学中または進学希望の生徒は、新たな通学区域割もとで通学することになります。

①盾津・楠根・新喜多・高井田

中学校の校区の生徒

⇒高等部から交野支援学校四条畷校

②市東部の1・2中学校校区の生徒

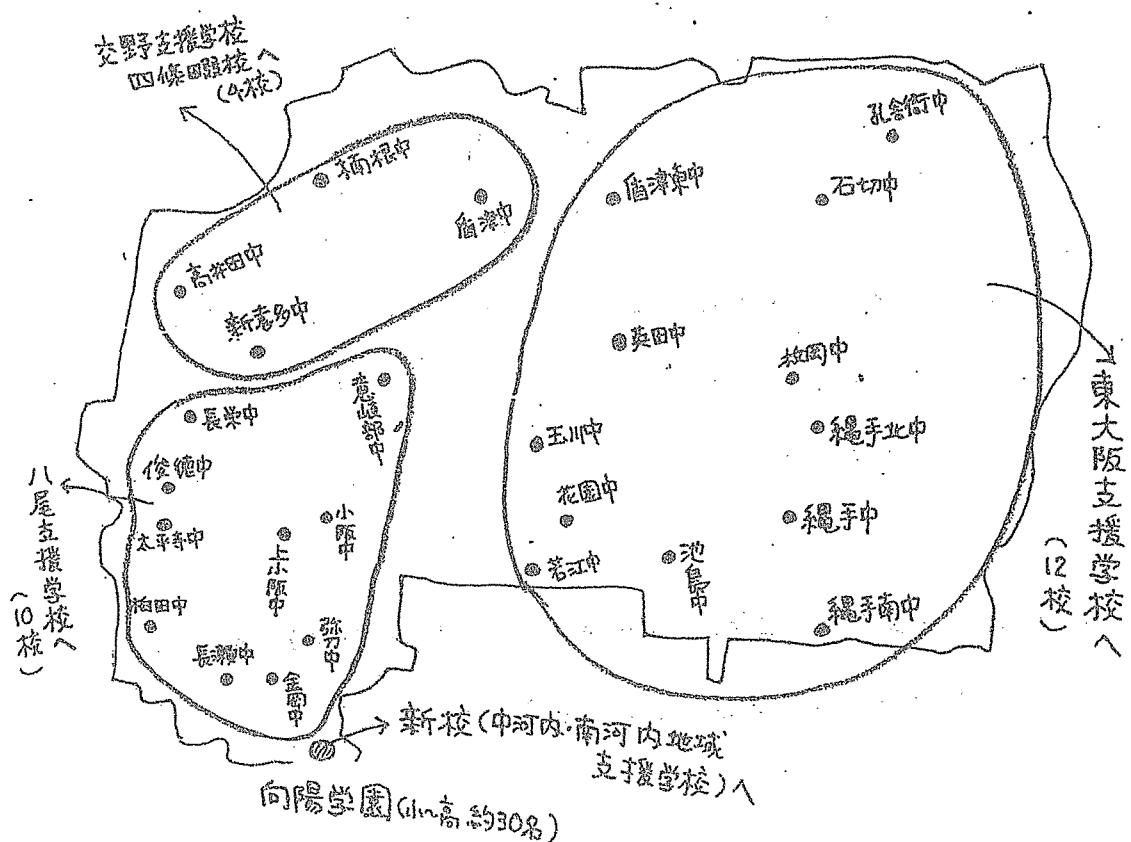
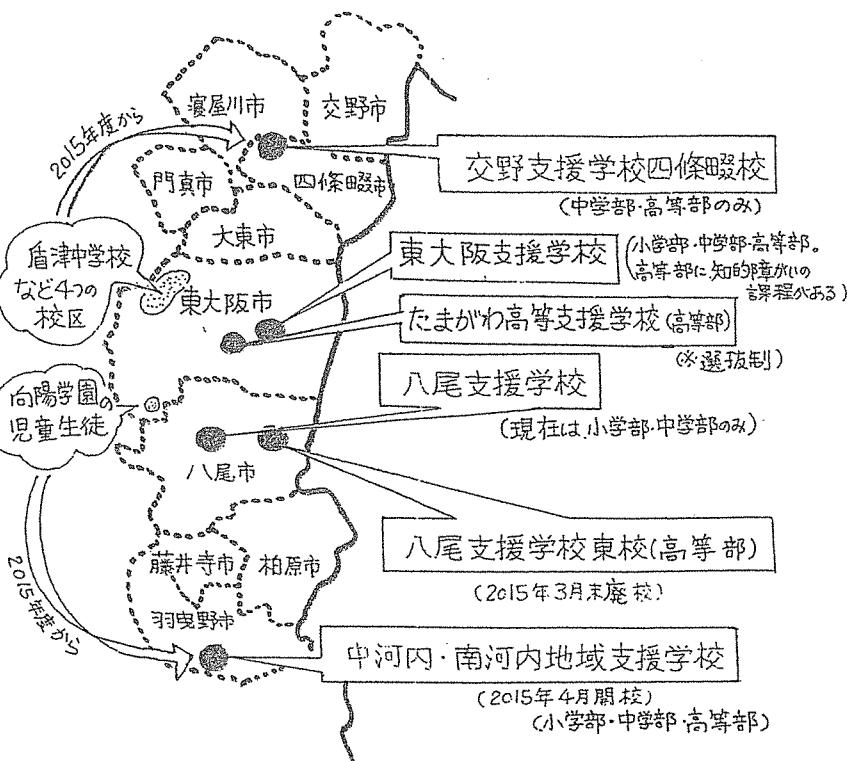
⇒高等部から東大阪支援学校高等部  
(生活課程)

③市西部の1・0中学校区の生徒

⇒八尾支援学校

④向陽学園入所の児童生徒

⇒中河内南河内地域支援学校(新校)



『資料』府立支援学校における知的障がい児童生徒の動向（25年度推計）

※府教委資料より作成（出生数をもとにした推計）

年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
府全体	3198	3347	3570	3812	4035	4132	4250	4316	4394	4461	4510	4510	4538	4569	4625	4678

中南河内	787	823	883	925	970	1012	1065	1078	1071	1067	1069	1049	1040	1030	1042	1055
------	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

網掛けは、実績値

府教委の分析は、

※推計期間中（今後10年間）、現在の児童生徒数より、約550人増加

※中南河内では、平成27年度にピークアウト

※平成26年度・27年度に現在整備中の3校が開校。府内全域で現状よりさらに約500人の受け入れが可能。

（新校…26年度開校／泉南支援学校 27年度開校予定／北河内地域支援学校、中河内南河内地域支援学校）

⇒今後は通学区域割の変更などによる対応を検討（新たな支援学校建設について、言及せず）

しかし、

- ①支援学級在籍者数が増加しているという動向が反映されていません。
- ②新校開校によって当該地域の在籍者数が増加する可能性が反映されていません。
- ③支援学校への入学率は増加傾向であり、過去の実績をもとに算出することは適切ではありません。

☆東大阪市在住の支援学校在籍児童生徒は、340名。50万都市・東大阪に小・中・高等部のある支援学校建設は急務の課題です。